

家庭

○ 学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくり



A(4) 家族・家庭生活についての課題と実践はどのように計画するとよいのでしょうか。

A(4) は、中学校、高等学校へとつながる学習です。習得した知識及び技能などを活用して課題を解決する力と、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養うことを目指して新設されました。

- ★ これまでの学習の中で疑問に思ったことやさらに探究したいこと、自分にできること等を考え、生活の課題として設定できるようにしましょう。
- ★ 家族や地域の人々と関わりながら実践できるようにしましょう。
- ★ 一連の学習過程（小学校学習指導要領解説家庭編 p15 参照）を重視し、問題解決的な学習を進められるようにしましょう。

「個を活かす協働的な学び」の実現 「個に応じたきめ細かな指導」の充実

「授業づくりの三訓」を生かして（例）

しかけて待つて	語らせつないで	認め励ます
<p>■「なりたい姿」を描かせる</p> <p>題材のはじめに、自分の家庭生活を見直して問題を見いだしたり、目標を明確にもたせたりする。</p> <p>◇手立ての例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童と一緒に学習計画を立てる。「〇〇ができるようになりたい」という目標をもつことで、「そのために、△△を学びたい」という意欲が喚起され、学習課題も具体的になる。 	<p>■「わけ」を表出させる</p> <p>理由を表出し、友達と共有する過程で、自分の考えが明確になったり、新たな視点を獲得したりする。</p> <p>◇手立ての例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「もし…だったらどう？」と逆の場合を考える助言をすることで、理由を語れるようにする。 ・長所と短所を対比させて示すなど、構造的な板書で発言を可視化する。 	<p>■具体的な記述を称賛する</p> <p>児童の頭の中にあることを引き出せるよう、振り返りや感想は、具体的に記述できるようにする。</p> <p>◇手立ての例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「家でも実践したいです」ではなく、いつ、誰に、どんなことをしようと計画しているのか具体的に書けるように助言したりワークシートを工夫したりし、好事例を紹介する。

ICTの活用について



1食分の献立作成を含む題材の各場面におけるICTの活用例を紹介します。

【見直しのポイントを基に、各自で献立を改善する場面で】

- ・材料等の見直し（加減、変更）をする際に、ICT端末上で栄養素別に色分けされた材料カード等を移動することで、児童一人一人が献立の改善について試行錯誤できる。
- ・教師は前時の児童が考えた献立を把握し、「指導に生かす評価」（「努力を要する」状況（C）と判断される児童への手立てを考えるための評価）を行うことが可能であり、本時のねらいの達成に向けて、個に応じた指導につなげることができる。

【グループで修正点を伝え合い、さらに改善を図る場面で】

- ・献立内容の修正前の画面（印刷）とICT端末上の画面を比較し、互いに見合うことで、献立内容の改善策の具体を容易に伝え合うことができる。また、具体的にアドバイスをし合うことが可能になるので、友達の助言を取り入れ、その場でさらなる改善を図りやすくなる。



【参考】StuDX Style (<https://www.mext.go.jp/studxstyle/index2.html>)

